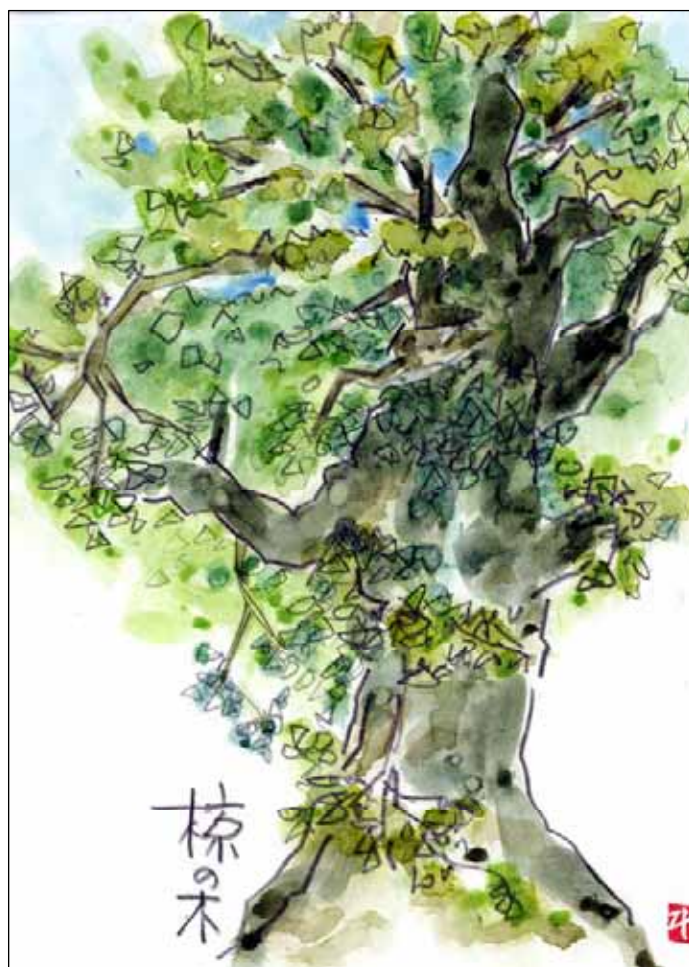


太宰府の樹木と鎮守さま

人に出会い、木に出会い



太宰府市景観樹木の調査に関する報告書

平成19年2月

福岡県太宰府市

人と自然が共生するまちをめざして

本市は「歴史とみどり豊かな文化のまち」を将来像に描き、本市が持つすぐれた歴史的文化遺産、みどり豊かな自然を生かしたまちづくりを進めています。

平成16年6月に景観法が制定されたことを本市におけます景観づくりの絶好の機会として捉えまして、平成16年9月に「太宰府市景観まちづくり懇話会」を設置し、太宰府市景観形成基本計画の掲げる方向に沿いまして、本市の「景観まちづくり制度」に関する調査・審議をお願いしているところです。

健康で快適な豊かな暮らしを実現していく上で、緑は重要な働きを持っています。市内に生息している樹木は、身近な緑として人々にやすらぎを与えるだけでなく、小動物の貴重な生息領域にもなっており、このような身近な緑を守り育てることも景観まちづくりにあっては重要な要素です。

この豊かな緑は、先人たちが長い年月をかけて育ててきた貴重な「緑」の資源であり、私たち市民共有の財産として、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

本書は、棕の会がボランティア活動として実施された太宰府市内に点在する貴重な種類の樹木の調査について、皆様の年月を経た活動の積み重ねの結果として実現できたものであり、文化的にも価値の高い自然の記録として高く評価しております。

今後は、この報告書を活用し太宰府の良好な自然環境を保全するとともに、自然と人との共生が実現できるまちづくりを目指していく所存でございます。

最後になりましたが、報告書の刊行にあたり、貴重な調査編集にご協力頂きました棕の会の皆様に心からお礼を申し上げます。

平成19年2月

太宰府市長 佐藤善郎

お祝いのことば

このたび、太宰府市内の大木や貴重な種類の樹木の調査記録が刊行されることになり、長年にわたり丁寧に調査されてこられた皆さんに感謝いたします。この記録は、太宰府市の自然の記録として大変貴重なものです。

近年都市化が進む福岡平野南部地域を宝満山や四王寺山の上から眺めると、平野部では、水城堤防付近には緑が残されているものの、これに続く田園地帯を除いては、二日市地溝帯南部までびっしりとビルや家並みに敷き詰められています。この中で太宰府市付近に目を移すと、市街地の中に緑の島がいくつか点在していることに気がつきます。これは公園の緑であったり、地域を守る鎮守の森や寺院の樹木などです。また、山すそを眺めると、太宰府天満宮境内の森が広がっています。ここは、鎮守の森としては県内有数の規模を誇っています。

太宰府市の自然の記録としては太宰府市史環境資料編があります。動植物全般に渡って詳細に記録されており、学術的にも価値の高いものとして評価されています。これに対し、本書の記録は市内に生息している樹木を個体ごとに記録したものです。自然の記録として、また、地域の変遷を眺めてきたであろう樹木たちの年齢を考えたとき、文化的にも価値のある仕事です。これらの緑の調査が、ボランティア活動で行われたこともまた大変有意義なことです。

本書の記録は、今後太宰府市の文化財行政や環境行政、学校での総合学習、一般市民の生涯学習など、各方面で活用されることと思います。調査、資料整理、刊行などに携わられた皆さん、ご苦労様でした。

平成19年2月

太宰府市文化財専門委員会副委員長
福岡県環境審議会委員
冷川昌彦

はじめに

本書は、太宰府市の樹木を調査した記録をまとめたものです。

市内にはいくつかの天然記念物に指定された樹木がありますが、天然記念物にはならないまでも、「大切に保存していきたい、していつてほしい樹木がたくさんあるのではないかしら…まずその台帳づくりをしよう」ということで調査を始めました。幹の周囲 50 cm以上を一つの目安として、山地を除く、市全域を対象にしました。また緑のまとまりとしての鎮守の杜の大切さを感じ、そこはなるべく多くの木を計測しました。

報告書はまず地域別（行政区ごと）に、木の種類、大きさ、生えている場所を表にし、写真を入れました。木の種類別に大きい順から並べた表も作り、『資料編』にしました。

皆さんの住んでいる近くにはどんな木があるでしょう？どこにどんな木が生えていて、どんなに長く生きてきたか、皆様が大切にしてください。木を見上げてほっと心がなごんで下さればもっとうれしいです。

この報告書がそのお役に立てればと思います。

棕の会一同



目 次

太宰府市内の樹木

北谷区	1
〈竈門神社新宮〉	
内山区	5
〈竈門神社・愛嶽神社〉	
松川区	11
〈秋葉神社〉	
三条区	12
連歌屋区	14
馬場区	16
〈石穴神社〉	
湯の谷区	21
大町区	21
新町区	22
五条区	22
〈横岳八幡宮〉	
白川区	25
高雄区	26
観世音寺区	26
〈日吉神社〉	
坂本区	33
〈坂本八幡宮〉	
国分区	35
〈衣掛天満宮・国分天満宮〉	
水城区	38
〈老松神社〉	
桜町区	42
〈菅原神社跡〉	
榎区	43
〈鹿嶋神社〉	
榎寺区	44
〈榎社〉	
通古賀区	47
〈王城神社〉	
大佐野区	50
〈地祿神社〉	
向佐野区	52
〈丸山神社〉	
吉松区	54
〈宝満宮〉	
太宰府天満宮	57

別 添

《資料編》	1～38
樹木別総覧	
付 記 石穴神社植物一覧	
太宰府市行政区図	

凡 例

1. この報告書は、平成 2 年（1990）秋から平成 18 年（2006）春まで、太宰府市内で行った樹木の調査の記録である。
2. 調査対象の木は、幹の周囲が太さ 50 cm 以上を一つの基準とし、山中に生えている木と個人の家の庭木は原則省いた。鎮守の杜は太い細いに関係なくなるべく全て計測した。
3. 計測方法は、幹の周囲は目どおり一本から 130 cm 一の位置で太さを測った。高さは簡易三角測量器を使って算出した。東西南北の枝張りは、下から目視した範囲で測った。出来る限り計測には努力したが、樹木の生えている場所によっては計測出来ない項目もあり、表を空欄、または計測不能と記入した。また斜面では、低い位置からの目どおりか、高い位置からの目どおりかで幹の周囲の数値も変わってくるなど、ここで表に表した数値はあくまでも一つの目安と考えて頂きたい。
4. シイについては、スダジイ—楕円形の実、縦にひび割れの多い幹—、ツブラジイ—実も葉もスダジイより小型で、幹はひび割れない—の 2 種に分けられるとされるが、特に九州ではスダジイ的な幹で実はツブラジイのように小さいものなど、両者を分ける基準が明確とは言い難いので、本書では個体ごとに幹の特徴と実の型、その大小など調べて正確に判断することは難しいと考えて、“シイ”ということによって統一して表した。
5. 本書の構成は、まず本編と資料編に分け、本編は地域別（行政区別）にその中にある木の種類、大きさ、高さ、枝張りなどを一覧表にし、特徴的なものは写真を配した。生えている場所は一覧表の備考欄に記し、鎮守の境内地は別に境内図を作って、生えている位置を点に落とした。なお、太宰府天満宮は数が多いので、馬場区に入れず、別に項目をたてた。資料編は樹木別総覧とし、木の種類別にまとめ、その中で幹の周囲の太いものから順に並べ、市内にはどんな木があつて、太さはどれくらいかわかるようにした。また、この調査のきっかけの一つになった石穴神社の植物調査の報告（昭和 58 年出版）を巻末に付した。
6. 横岳八幡宮は白川区の北に位置するが、古くは白川区が五条区に含まれていた経緯もあつて今も五条区の人々が守っているので、五条区に分類した。同様に石穴神社も現在は湯の谷西区の奥に鎮座するが、以前のつながりから神社だけ馬場区に含まれているので、本書もそれに倣った。
7. 太宰府天満宮境内地の国、県指定天然記念物のクスノキは『巨大クスノキの研究—太宰府天満宮クスノキ樹勢回復への挑戦』（財団法人太宰府顕彰会平成 13 年）掲載の「太宰府天満宮クスノキの形状調査」の表を引用した。

木との出会い

私が木と出会ったのは、太宰府市史の民俗調査から始まったようです。聞き取りにあちこち歩きまわっている中に、珍しい木、大きな木、全く知らない木々との出会いが沢山ありました。

鎮守さまの石造物も同時進行で調査しておりましたので、鎮守の杜に魅せられて、その容を遠景等でカメラに収めたりして、気持ちはそちらの方へかたむきかけておりました。

聞き取りの再調査に入った時、中島伊佐子さんと弁当持参で太宰府中を歩きました。その時の会話の中で、「こんな木は大切にせないかんよね。太宰府には木の戸籍とかないから調べて、市役所をお願いしたいね」というのが、はじまりでした。

当時の「太宰府市民憲章」（「市民章」）は…生き生きとした自然を愛し、緑かがやくまちをつくりましょう…というのが標題でした。

仲間内の皆さんに声をかけると「それは良いこと」と意見が一致し、「棕の会」と名づけてはじめたのが十数年前の話です。皆、合間を縫って、あちこちかけずり回って調査をしました。

しかし、そのうちに、掃除が大変とか、危険だから、と一部の人の声で、バツサリ伐られたり、開発という事に逆らえず、急に様が変わり致しました。

過去形になったと思いますが、皆で気長く、気長くやってきた集大成でございます。こんな時代もあったのだとご一覽下さいませ。

市民章は「死語」になった感じですが、市民の方々のご協力で、今からでも遅くはありません。将来のために、現在の木を大事にしたり、森を復活させたりと、努力なさって下さるようお願い致します。

(ハ鼻千世)